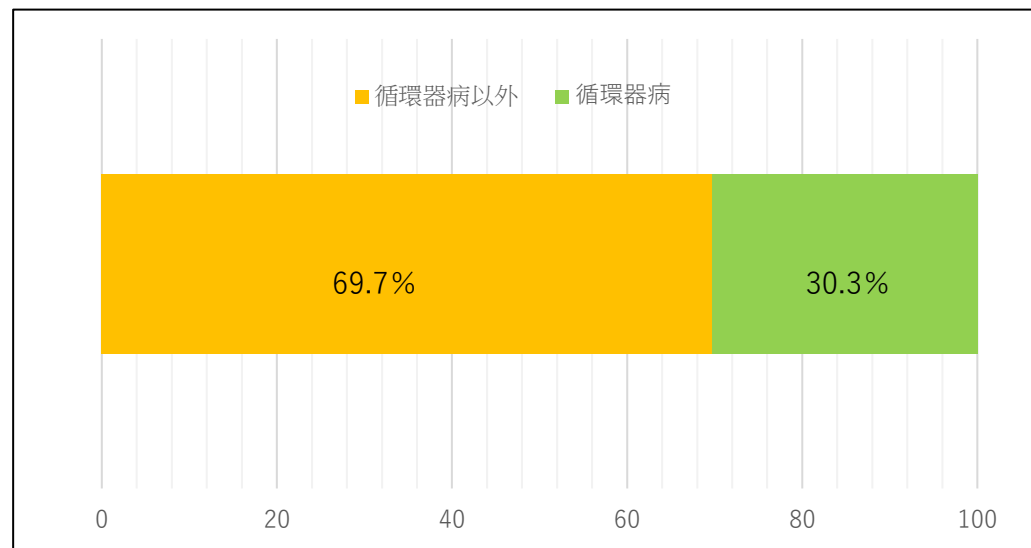


循環器病患者の在宅支援に関する現状に関するアンケート結果報告

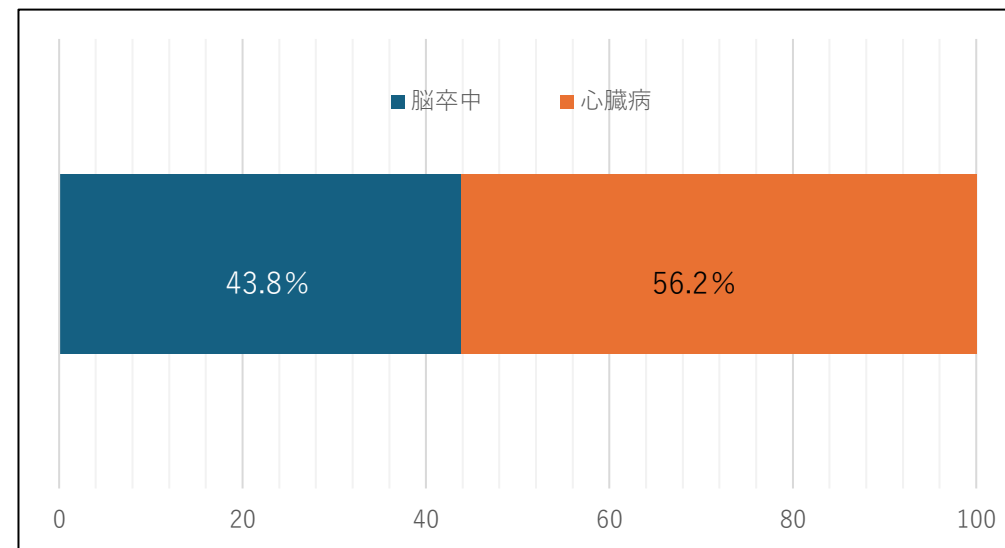
山形大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター
看護部門
2026年8月31日

1. 訪問看護介入件数のうち 循環器病と循環器病以外の割合



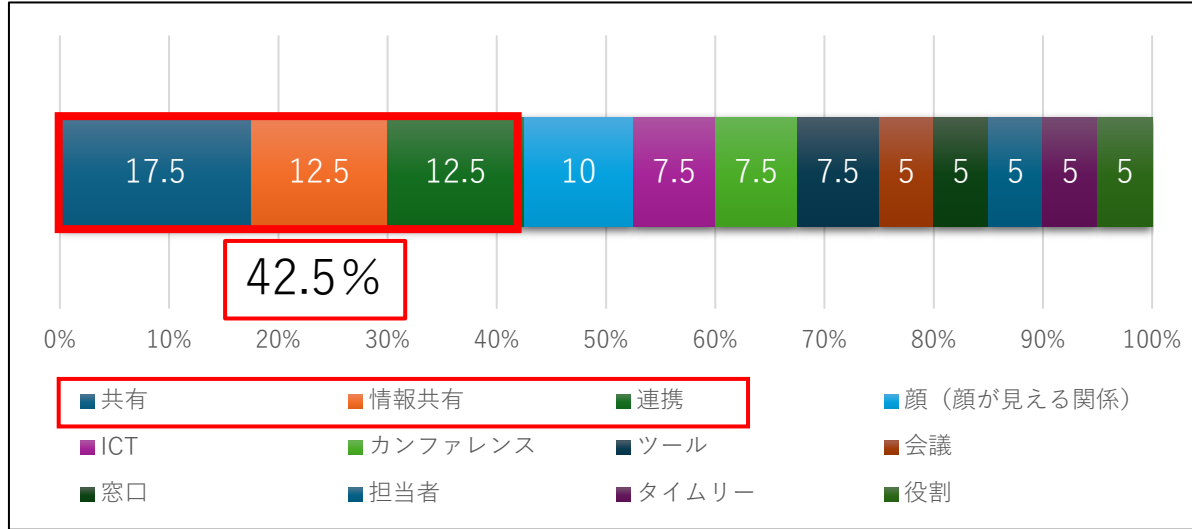
R6年度の訪問看護介入件数の内、循環器病の割合は30.3%であった

2. 循環器病患者のうち 脳卒中患者と心臓病患者の割合



R6年度の訪問看護の循環器病の内訳は脳卒中が43.8%、心臓病・心不全が56.2%であった

3. 多職種とのスムーズな連携で必要なことは何ですか



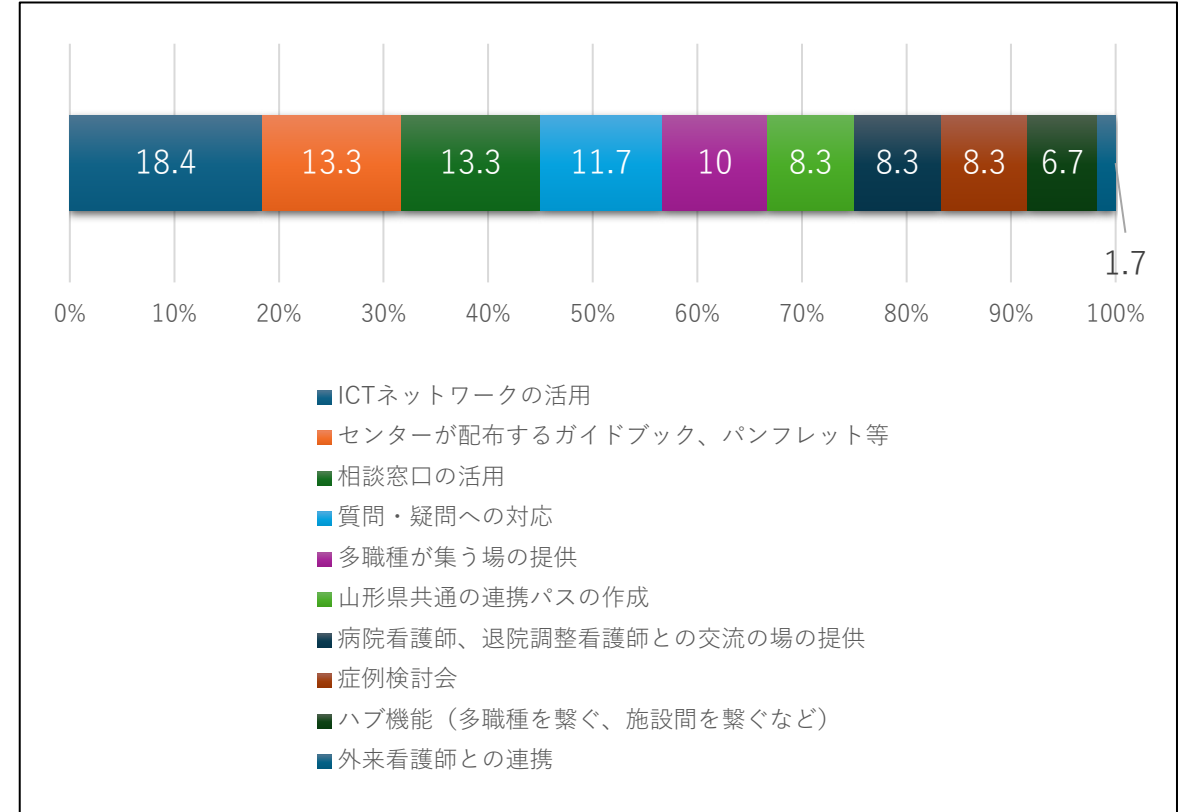
「共有」「情報共有」「連携」が最上位であり、次に対面・信頼関係・関係性づくりへのニーズが高かった。情報共有を支える手段としてのICT・ツール・カンファレンスなどがあげられていた。

多職種がスムーズに連携するためには、

- ・情報を迅速かつ確実に**共有**すること
- ・顔の見える関係を築き、**互いの役割を理解**すること
- ・ICTや**共有ツール**を活用すること
- ・カンファレンスや会議などの**情報交換の場を設ける**こと
- ・担当者や窓口、**役割分担を明確**にすること

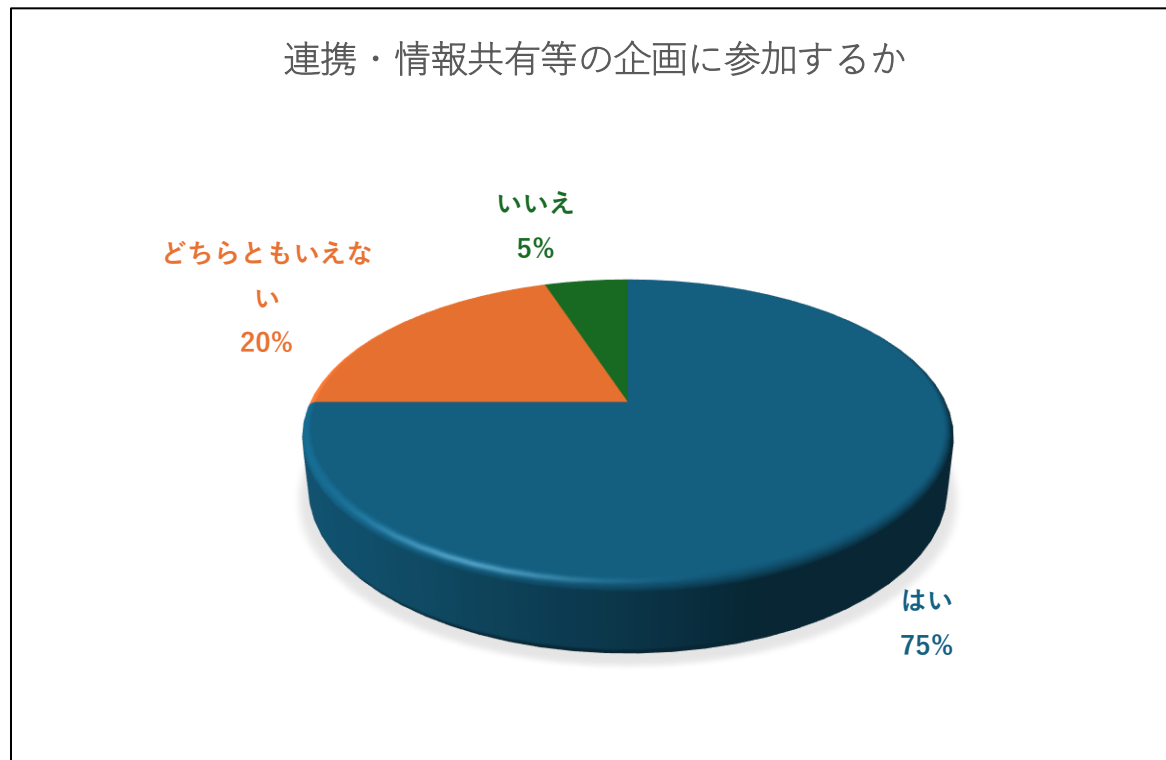
などが重要であると示唆された

4. 当センターへどのような役割を希望されますか



当センターの役割について、ICTネットワークの活用が最も多く、**効率的な情報共有への期待**が高いことが伺える。一方、ガイドブックやパンフレットなど**情報提供など具体的なツール**の希望もあり、相談窓口の活用、質疑疑問への対応などのシステム導入だけでなく、**困ったときの対応ができる人を介した体制、サポート**も求められていた。また、他施設間の交流や**ネットワーク、共通ツールの整備**への要望などもあった。

5. 当センターが訪問看護に関する企画、連携及び情報共有を行った場合、参加を希望されますか

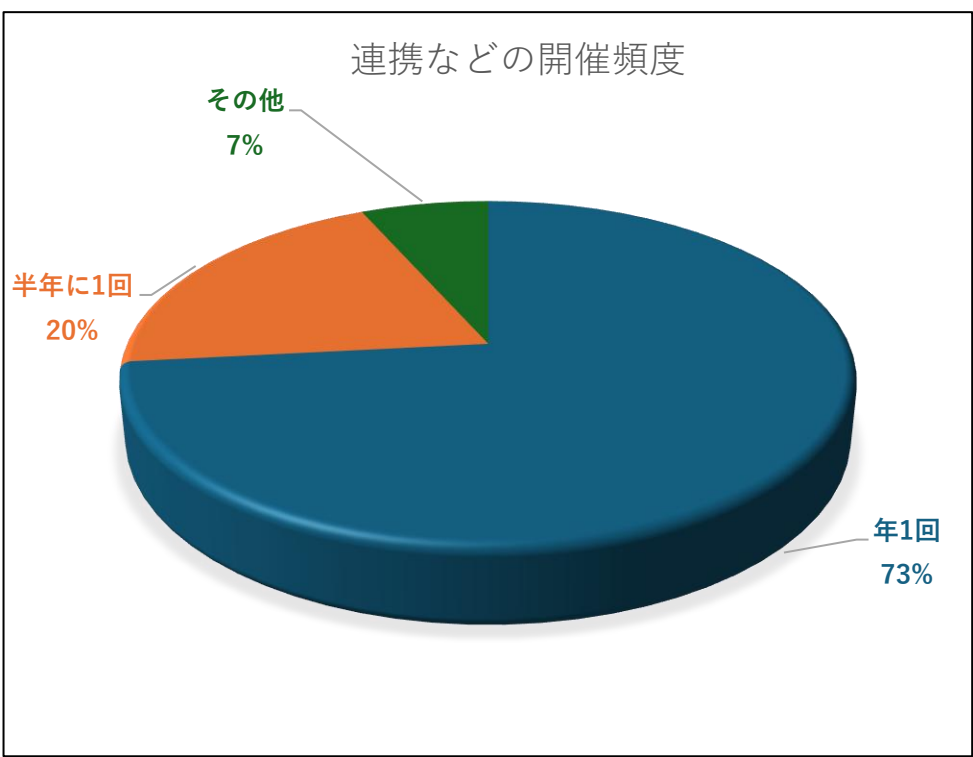
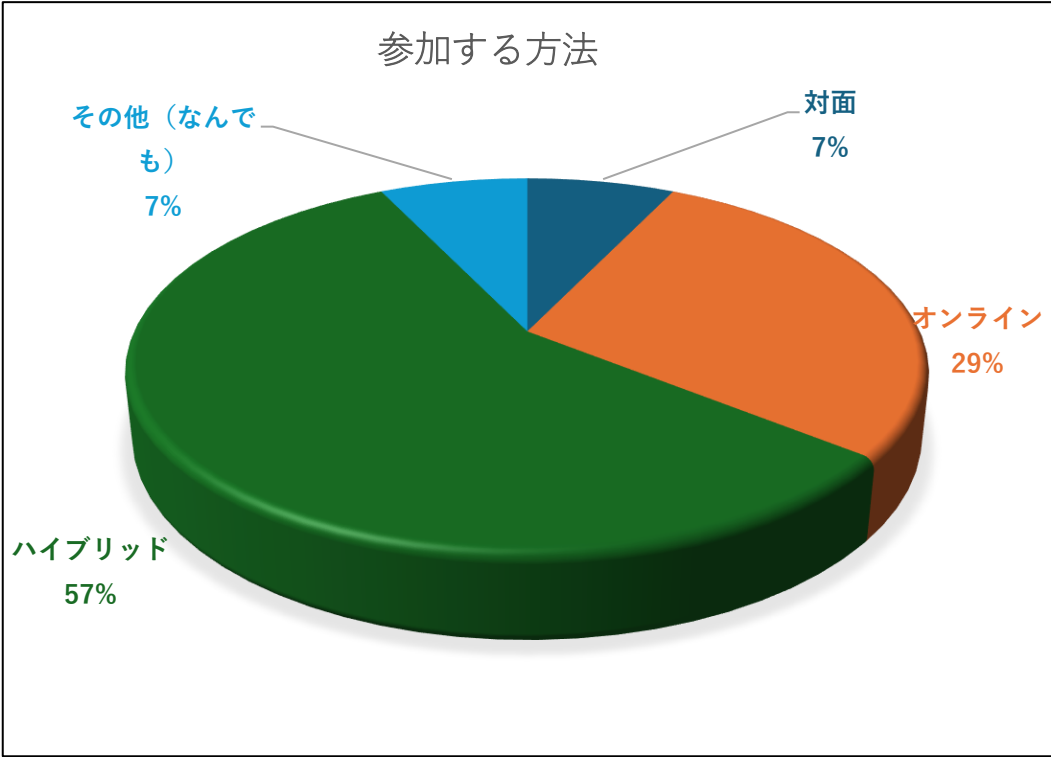


どちらともいえない・いいえと回答した理由

- ・ 集合なら参加が難しい
- ・ 対象の方がいない
- ・ 仕事の都合、時間帯にもよります
- ・ 訪問調整が忙しく日によっては調整ができないため
- ・ 遠い
- ・ zoomなら日程によっては可能

○情報共有などの企画に75%の方が参加するとの回答を得た。
○参加について『どちらともいえない』または『いいえ』と回答した者の理由を確認したところ、参加意思が全くないわけではなく、参加条件が整えば参加が可能であることが分かった

6. 「希望する」と回答された方はその連携の方法・開催頻度について教えてください



○参加方法としては、ハイブリッド方式、オンライン方式の順であったが、対面、オンライン何れかの方法であれば参加できる環境であることがわかった。

○連携などの開催頻度は、年1回が73%と最も多く、業務負担にならない程度の開催が望まれていた。

まとめ

- ・ 本調査は、訪問看護ステーション施設長を対象に、循環器病患者の在宅支援に関する現状と課題を把握するため実施した。回答数は限定的であるが、地域の在宅支援の実態を把握するうえで貴重な資料となった
 - ・ 多職種連携において最も重要視されていたのは「**情報共有**」であり、「顔の見える関係づくり」の必要性も示された
 - ・ 脳卒中・心臓病等総合支援センターには、ICTを活用した情報共有体制の整備、相談支援機能、ネットワークづくり、共通ツールの整備への期待が寄せられていた
 - ・ 情報共有や連携に関する企画への参加意欲は高く、ハイブリッド形式で年1回程度の開催が望まれていた
- * 今後、当センターは地域連携のハブとして、情報共有できる場、研修会の開催など循環器病患者とその家族が安心して地域で療養できるための環境づくりに取り組んでいきたい。